

ポートフォリオ・LMSの先端事例研究セミナー manabaの運用実績と学習効果

in 京都

参加費
無料

日時	2011年10月7日(金) 12:30~18:00 (受付開始11:30)		
会場	京都全日空ホテル 2F 平安の間		
対象	大学、高等学校、中学校、小学校の教員・職員の方	定員	200名
	※企業関係者の方は対象外です。		
申込期限	10月3日(月) ※定員に達した場合、お申し込みを締め切らせていただきます。ご了承ください。		
講師	基調講演 熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長 鈴木 克明 氏	セッション 1 立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授 小沢 道紀 氏 立命館大学 文学部 准教授 神藤 貴昭 氏 セッション 2 熊本大学 政策創造研究教育センター 教授 都竹 茂樹 氏	セッション 3 大阪教育大学 科学教育センター 特任准教授 仲矢 史雄 氏 セッション 4 東洋大学 情報システム課 主任 藤原 喜仁 氏
	パネルディスカッション 株式会社朝日ネット 顧問 マサチューセッツ工科大学 シニア・ストラテジスト 飯吉 透 氏 京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 田口 真奈 氏 東京大学 大学教育総合研究センター 助教 重田 勝介 氏		

タイムスケジュール

11:30	受付開始	A 会場	B 会場
12:30	基調講演 学習力アップを目指したeラーニングデザイン 熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長 鈴木 克明 氏		
13:20	休憩		
13:30	セッション 1 立命館大学における特色あるポートフォリオの活用 立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授 小沢 道紀 氏 立命館大学 文学部 准教授 神藤 貴昭 氏	セッション 2 manabaを活用した医学教育 - 学びは深化したか？ - 熊本大学 政策創造研究教育センター 教授 都竹 茂樹 氏	
14:20	休憩		
14:50	セッション 3 ポートフォリオを活用した大学教員による高校生への先進的理科教育 大阪教育大学 科学教育センター 特任准教授 仲矢 史雄 氏	セッション 4 なぜ、東洋大学では授業支援システムの利用率が4倍に伸びたのか？ 東洋大学 情報システム課 主任 藤原 喜仁 氏	
15:40	休憩		
15:50	パネルディスカッション 日本と北米の大学におけるICT利用の現状と将来的課題 株式会社朝日ネット 顧問 マサチューセッツ工科大学 シニア・ストラテジスト 飯吉 透 氏	京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授 田口 真奈 氏	東京大学 大学教育総合研究センター 助教 重田 勝介 氏
16:40	C 会場 懇親会(無料)		
18:00	終了		

会場案内

京都全日空ホテル 2F 平安の間
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前 TEL:075-231-1155 (代表)
●地下鉄東西線「二条城前駅」2番出口より徒歩 約1分
●JR京都駅八条口より、無料のシャトルバス(定員26名)が約15分間隔で運行しています。



お申し込みはこちらから

WEB <http://manaba.jp/>
FAX 03-3571-8722

お問い合わせ先

株式会社朝日ネット クラウドサービス部
〒104-0061 東京都中央区銀座6-6-7 朝日ビル
TEL : 03-3569-3010
MAIL: manaba@desk.asahi-net.or.jp

基調講演 12:30~13:20

学習力アップを目指したeラーニングデザイン

eラーニングの質を高めるための枠組みとして「eラーニング質保証レイヤーモデル」を紹介する。eラーニングで大学等の学習環境を整えることを通して、学生の学ぶ力が高めるためのヒントをインストラクショナルデザイン (ID) の視点から整理する。IDは教育の効果・効率・魅力を高める実践手法として欧米では半世紀の歴史を持つ教育工学の中核領域であるが、我が国ではeラーニングへの高い期待が裏切られたことを背景に21世紀になってようやく注目を集め始めた研究成果である。その中でも学習者の意欲を刺激して教育の魅力を高めることを直接目指した理論として世界に広く知られているARCSモデルを紹介する。IDを使うことでeラーニングの質をどのように高めていくのか、それが学習力アップにどうつながるのかを示す。参集される各位がeラーニングを始める決断を促し、また、すでに着手した実践を振り返ってもっとよくする切り口になるように願いつつ。



熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長 鈴木 克明 氏

国際基督教大学卒、米国フロリダ州立大学大学院修了、Ph.D (教授システム学専攻)。東北学院大学、岩手県立大学を経て、2006年4月から現職にてeラーニングによるeラーニング専門家養成大学院の創設・運営にあたる。

パネルディスカッション 15:50~16:40

日本と北米の大学におけるICT利用の現状と将来的課題

グローバル化が加速し競争と協調が高まる世界の中で、ICT利用によって大学教育や高等教育システムの変革と進展を図りつつある国々は増えつつある。片や山積する様々な問題に直面する日本の大学は、これらの諸問題への早急な対応を余儀なくされる一方で、ICTやFD (ファカルティー・デベロップメント) による実質的な教育支援体制の整備は遅々として進まず、テクノロジーを活用した学生のための学習環境のレベルも「世界級」とは呼び難いのが現状だ。一体何が日本の大学教育の進化を阻害しているのか? 日本の大学における教育文化、制度、組織、価値観や教職員の意識のどこに問題があるのか? 本セッションでは、大学におけるICT活用や教育支援について国内外の最新動向や歴史的経緯に詳しい三人のパネリストが、北米を始め世界の大学における教育支援基盤としてのICT利用を概観し、今日本の大学が何を為すべきかについて忌憚のない議論と提言をおこなう。



マサチューセッツ工科大学 飯吉 透 氏

株式会社朝日ネット 顧問
マサチューセッツ工科大学教育イノベーション・テクノロジー局シニア・ストラテジスト
北陸先端科学技術大学院大学客員教授



京都大学 田口 真奈 氏

京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授
メディア教育開発センター (現放送大学) 准教授、ハーバード大学デレックボク教授学習センター客員研究員を経て、2008年より現職。



東京大学 重田 勝介 氏

東京大学 大学教育総合研究センター 助教
UCバークレー客員研究員(2009年)

セッション 1 13:30~14:20

立命館大学における特色あるポートフォリオの活用

学修支援での活用事例

スポーツ健康科学部では、2010年4月、学部開設時よりポートフォリオを活用した学修支援を開始。1、2年生約450名の学生が授業での活用を中心に、キャリアでの活用や教員や先輩チューターなどの他学生と交流を行いながら学修支援を実施。1年間の実績を学生の声を交えて紹介する。



立命館大学 小沢 道紀 氏

立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授
専門はスポーツ・マーケティング、サービス・マーケティング。マーケティングを行うため、スポーツ製品の特性を解明する研究を行っている。

教職 履修カルテの活用事例

教職課程では、2011年4月より2年生 約1,000名を対象に、教職課程において学生が自己評価を行い、教員が指導を行う双方向の履修カルテとして運用をスタートした。履修カルテの構想や、今後の展望について、実際のポートフォリオの画面を用いて紹介する。



立命館大学 神藤 貴昭 氏

立命館大学 文学部 准教授
立命館大学教職支援センター長、教職教育推進機構副機構長。専門は教育心理学、高等教育。大学教育における相互行為や、心理的ストレスに関わる教育心理学的研究を行っている。

セッション 3 14:50~15:40

ポートフォリオを活用した大学教員による高校生への先進的理科教育

大阪教育大学ではこれからの現代科学を担って行く「科学技術イノベーション人材」を育成するため、附属の小中高校において先導的教育研究を推進している。文科省から「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受けている附属高校天王寺校舎は、大学教員が高校生を直接指導する取り組みを実施する中で、ポートフォリオを活用し、学校の壁を越えた発展的な課外授業を行っている。本講では、現在の活用状況から今後のポートフォリオ活用の展望を語る。



大阪教育大学 仲矢 史雄 氏

大阪教育大学 科学教育センター 特任准教授
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター講師を経て2010年10月より現職。

セッション 2 13:30~14:20

manabaを活用した医学教育 - 学びは深化したか？ -

高知大学医学部医学科では、一方通行に陥りがちな従来の講義形式の欠点を補う目的で、100名の医学生を少人数のチームに分割し、学生同士のチームディスカッション、および1名の教員と全学生との討論を通じた学び・TBL (Team based learning) を一部取り入れている。しかしながら、自ら発言する学生は限られていることもあって、議論が深まらないことも少なくない。そこでmanabaの掲示板機能を活用し、講義と講義の間にWeb上で学生同士の議論を促すことで、学生の学習に対する意識や満足度がどのように変化したのか、前年度の学生と比較しながらその効果を紹介する。



熊本大学 都竹 茂樹 氏

熊本大学 政策創造研究教育センター 教授
高知大学医学部(公衆衛生学) 准教授を経て、2011年より現職。
専門はヘルスプロモーション、トレーニング科学。医師、医学博士、修士(公衆衛生学)、修士(教授システム学)。

セッション 4 14:50~15:40

なぜ、東洋大学では授業支援システムの利用率が4倍に伸びたのか？

東洋大学では、2010年度よりすべての学部・大学院の授業支援システムとして「manaba course」の運用を開始し1年半が経過した。現在、約3万人の学生が「教育の共通インフラ」として、授業前の課題提示、小テスト、掲示板、など日常的に活用している。1年半を通じて運用を行った結果、前システムと比較して教員の利用率が4倍になった。第8回の講演で好評だった、実際の導入から運用開始、利用率向上に至るまでを、再度職員目線から具体的に紹介する。



東洋大学 藤原 喜仁 氏

東洋大学 情報システム部 情報システム課 主任
教育研究システム分野に従事。学内グループウェア/全学WEBサイト/GoogleAppsのシステム運用・授業システム運用に携わる。